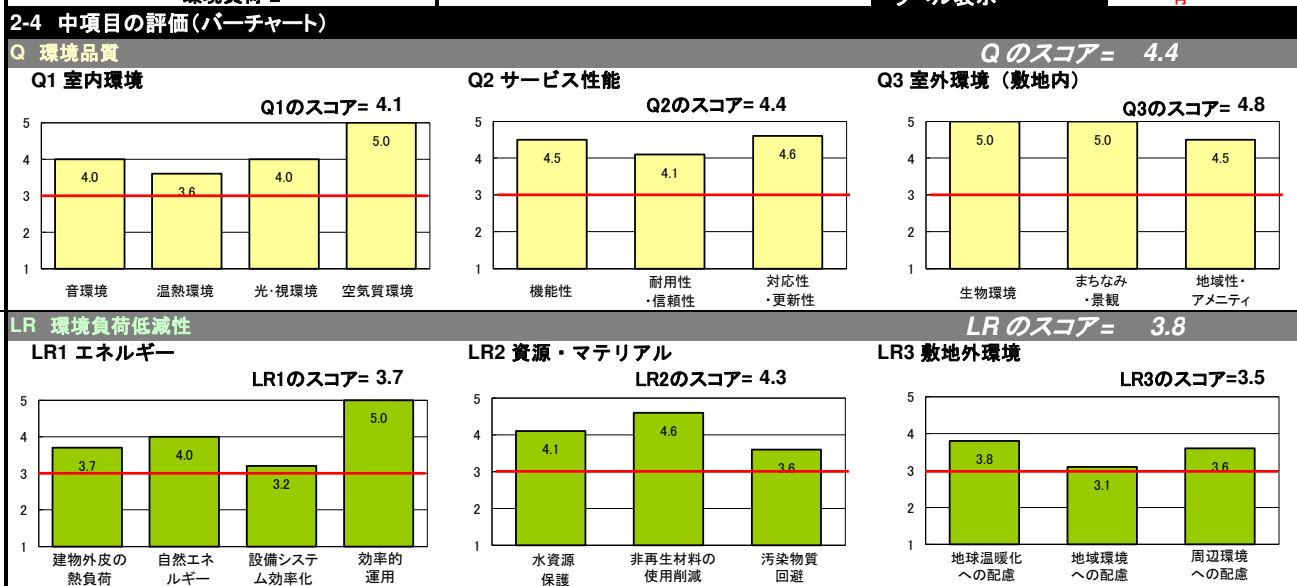
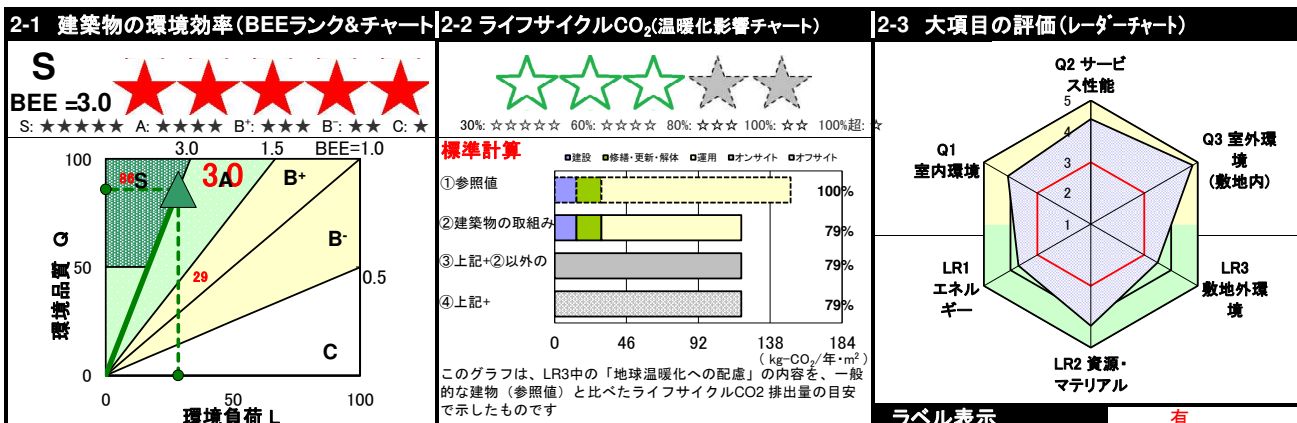




# 建築物総合環境計画概要書 新築

■使用評価マニュアル:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2.1) ■使用評価ソフト:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観
建物名称	淀屋橋駅西地区第一種市街地再開発事業 施設建築物	
建設地	中央区北浜4丁目	
建築用途	事務所、商業（飲食・物販）、自動車車庫・自転車駐車場、その他	
建築主		
設計者		
敷地面積	7,206.23 m <sup>2</sup>	
建築面積	5,175.44 m <sup>2</sup>	
延床面積	132,423.82 m <sup>2</sup>	
構造/階数	S造 / 地上29階、地下2階	
完了年(予定)	2025年12月	



3 設計上の配慮事項		その他
<p><b>総合</b></p> <p>外装は、高性能Low-E及びPC+ウレタンフォームt50により高い外装性能を確保。御堂筋デザインガイドラインに則りまちなみ・景観に最大限配慮した計画。空調熱源は電気都市ガス熱源を併用した中央熱源（地域冷暖房設備）とし、停電時50%空調可能なB C P性能の高いシステム。節水器具の積極的な採用と、雨水・空調ドレン・冷却水排水の雑用水への再利用。</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>VOC放散量が少ない建材を全面的に採用。インテリアとペリメーターの coils を分けた空調システム、外気処理空調機には除湿再熱用のラップコイルを設置。オフィスの空気質に配慮した換気量の確保。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>維持管理しやすいマテリアルの採用。階高4.2~4.3m、天井高2.8mの大空間事務所。空調熱源は電気都市ガス熱源を併用した中央熱源（地域冷暖房設備）とし、停電時50%空調可能なB C P性能の高いシステム。</p>	
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>空調熱源はターボ冷凍機、ガス吸収式温水発生機を併用したシステムとし、地下水を利用した井水熱利用ヒートポンプ、蓄熱槽を組み込んだ高効率なシステムとしている。太陽発電は10kW導入。BEI0.78。省エネ目標値を定め、BEMSを用いエネルギー管理を行う。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>ODP=0かつGWPの低い発泡剤の使用。節水器具の積極的な採用と、雨水・空調ドレン・冷却水排水の雑用水への再利用。</p>	
		<p><b>Q3 室外環境（敷地内）</b></p> <p>立地特性に応じた緑化計画や緑量の確保。御堂筋デザインガイドラインに基づく、まちなみ・景観への最大限の配慮。設備排熱のほとんどを屋上で行う周辺環境に配慮した計画。</p>
		<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>隣地公共駐車場を取り込んだ台数に余裕のある駐輪場計画。駐車場の確保による交通負荷の低減。風シミュレーションによる周囲への影響の事前検討。ほとんどの排熱を屋上設置の冷却塔から排熱する計画。</p>

## 建築物環境性能表示 結果〔重点評価〕

総合評価BEE = 3.0

ラベル表示



環境性能	評価点
(1)CO2削減	4.0
CO2削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR3/ 1 / /	地球温暖化への配慮 3.8
設備システムの高効率化によるライフサイクルCO2の削減	
配慮事項	設備システムの高効率化によるライフサイクルCO2の削減

環境性能	評価点
(2)みどり・ヒートアイランド対策	4.0
みどり・ヒートアイランド対策に配慮した環境性能	概要記入欄
Q3 / 1 / /	生物環境の保全と創出 5.0
樹種や地域性への配慮	
Q3 / 3 / 3.2/	敷地内温熱環境の向上 4.0
積極的な緑化,主な設備排熱のほとんどを屋上で行う。	
LR3/ 2 / 2.2/	温熱環境悪化の改善 3.0
ほとんどの排熱を屋上設置の冷却塔から排熱する計画。	
配慮事項	主な空調排熱を冷却塔から行うことで顕熱排熱を抑制。屋上に大部分の排熱設備を集約。

環境性能	評価点
(3)建物の断熱性	4.0
CO2削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR1/ 1 / /	建物の熱負荷抑制 3.7
事務室に高性能Low-E複層ガラスを全面採用	
配慮事項	外装は、高性能Low-E及びPC+ウレタンフォームt50により高い外装性能を確保。

環境性能	評価点
(4)エネルギー削減	3.0
CO2削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR1/ 3 / /	設備システムの高効率化 3.2
高効率熱源、井水熱源ヒートポンプ、蓄熱槽、コジェネレーションシステムによる発電と排熱利用、太陽光発電、自然換気、外気冷房を行い省エネを図っている。	
配慮事項	

## 省エネルギー基準計算結果

基準  
適合状況

適合

※ 外皮性能については、住宅部分が等級4（相当）以上、非住宅部分が1.0以下であること  
 ※ 一次エネルギー消費量については、建物全体のBEI、BEImが1.0以下であること（新築時）  
 （基準適合義務がある部分については、その部分のBEI、BEImが1.0以下であること）

外皮性能

住宅部分（品確法等級）

-

（相当）

非住宅部分[BPI][BPI<sub>m</sub>]

0.92

建物全体[BEI][BEI<sub>m</sub>]

一次エネルギー消費量

0.78

住宅部分[BEI]

-

非住宅部分[BEI][BEI<sub>m</sub>]

0.78